



2011 年 11 月 10 日パリ

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2011 年第 3 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2011年第3四半期及び9ヶ月累計業績

欧州債務危機を乗り越えるグループの堅調な業績結果と強固な収益力

当グループの事業部門の堅調な業績結果

営業総利益: 9ヶ月累積は前年同期間比7.0%増加

リテール・バンキングは堅調な事業展開

オン・バランスシート上のフランス国内顧客預かり資産は、前年比6.4%増加

地域経済のファイナンスに対する力強い貢献

2011年第3四半期の顧客ローン残高は226億ユーロ

ソブリン債エクスポージャーの削減

銀行業務のエクスポージャー(純額)は、2011年6月30日から9月30日の間に21%減少、

2011年6月30日から10月31日の間では27%の減少¹

ギリシャ、アイルランド、ポルトガル、イタリア、スペイン

クレディ・アグリコル・グループ*

2011年9ヶ月累計: 純利益グループ帰属分: 前年同期比で1.2%増の33億3,800万ユーロ

2011年第3四半期: 純利益グループ帰属分: 前年同期比で36%減の9億3,000万ユーロ

コア・ティア 1 レシオ: 8.9%

*クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行100%を含む

クレディ・アグリコル S.A.

2011年9ヶ月累積

純利益グループ帰属分は前年同期比で0.4%増の15億9,700万ユーロ

ティア1レシオ: 11.0%、内コア・ティア1レシオ:8.8%

2010年第3四半期比

収益: 6.2%増加、営業総利益: 15.8%増加

リスク関連費用: ギリシャ国債の減損費用を除き2.7%減少

ギリシャ国債の減損費用(減損比率60%): 6億3,700万ユーロ

(純利益グループ帰属分への影響額)

純利益グループ帰属分: 65.2%減の2億5,800万ユーロ

¹ 9月30日現在のエクスポージャーは10月の変動によりアップデートされています。

クレディ・アグリコル・グループ

2011年9ヶ月累計のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、33億3,800万ユーロで、1年前と同様の水準となりました(1.2%増加)。

2011年第3四半期は、純利益グループ帰属分が前期比で5.5%増の9億3,000万ユーロに達しました。但し、欧州債務危機による影響が全くなかった2010年第3四半期に対し36%減少しました。この数字には、エンポリキと当グループの生命保険会社両方が保有するギリシャ国債の減損費用が60%含まれています。この厳しく、極めて不透明なマクロ経済の環境下においても、当グループの各事業部門の回復が反映された内容になっています。

第3四半期の収益は、特にリテール・バンキングや関連事業部門での事業展開が引き続き堅調であったことから、前年同期比で3.7%増の87億6,600万ユーロに達しました。地域銀行のビジネスはこれまでと同様に堅調で、貸出、特に住宅ローン(前年同期比7.1%増加)、法人顧客に対する貸出(5.9%増加)の分野で力強い伸びを維持しました。また同期間で、オン・バランスシート上の貯蓄残高は5.1%増加しました。

営業総利益は、厳格に管理された費用(3.4%増加)を反映して4.1%増の35億5,400ユーロへと増加しました。この営業総利益の増加は、地域銀行が欧州銀行のITプロジェクトとしては最大規模の一つであるニース・プロジェクト(NICE Project) に投資している段階にもかかわらず達成されました。ニース・プロジェクトは39の地域銀行に共通のITプラットフォームを構築し、実施後の大幅なコスト削減を目的に考案されました。

リスク関連費用の増加は、全てユーロ圏包括合意のギリシャ支援策によるものです。この要因を除いた場合、リスク関連費用は低水準であり、それは主にCIB部門によりもたらされています。

ソルベンシー比率に関しては、クレディ・アグリコル・グループのコア・ティア1レシオは8.9%でした。アンフロアー・ベースでは、10.4%になります。

クレディ・アグリコルS.A.

2011年第3四半期と9ヶ月累計の業績検討のために、2011年11月9日にジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

2011年の第3四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期の7億4,200万ユーロに対し、2億5,800万ユーロでした。2011年9ヶ月累計では、前年同期の15億9,100万ユーロに対し、15億9,700万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコルS.A.のジャン・マリ・サンデルは、今期の利益は強靱な事業パフォーマンスの継続ならびにギリシャ国債の60%の減損を反映していますが、具体的には以下の諸点が挙げられると説明しています。

- 極めて厳しい経済環境と不透明で変動の激しいマーケット状況において、全事業部門にわたって強力な事業展開を維持し、第3四半期の収益は53億ユーロで、前年同期比で6.2%増加を達成した。
- 管理された費用は、僅かに0.9%増加したものの、新銀行税を除き横ばいとなった。

- その結果、営業総利益は16.8%増加し、20億ユーロ超を達成した。
- リスク関連費用は、ギリシャ国債の減損を除くと2.7%減少した。
- ブリュッセルで開催されたユーロ圏首脳会合（サミット）でユーロ圏諸国が合意したギリシャ支援策の影響；ギリシャ国債の減損比率60%に基づくリスク関連費用は9億500万ユーロ、税金及び少数株主持分控除後のリスク関連費用は、6億3,700万ユーロ。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、フランス及び欧州の銀行に打撃を与えたこの例外的な出来事のスケールの大きさを考慮に入れた場合、第3四半期のクレディ・アグリコルS.A.の利益基盤は、2011年の第1四半期、第2四半期のそれに沿ったものであると述べました。

事業部門の強力な業績結果

当グループの事業部門は、低迷したマクロ経済環境、欧米経済の成長率の著しい減速や国債に対して政府が責任を果たすべき債務履行能力に対する懸念、著しく混乱し、課題を抱えた変動の大きいマーケット、低迷したマクロ経済環境下にあるにもかかわらず、引き続き強力な事業活動が報告されました。

フランス国内のリテール・バンキングでは、上記に述べたように、地域銀行が貸出し及び預金の両面で堅調な事業展開を每期維持しています。LCLは、引き続き貸出し資産で強い伸びを記録しました（前年同期比11.4%）。またオン・バランスシート上の預金残高は前年同期比で12.6%増加しました。

エンポリキを除く国際リテール・バンキングでは、2011年第3四半期の収益は9.7%増加しました。この業績結果は、一部はイタリアの新規支店の統合によるものです。

専門金融サービスでは、消費者金融部門が個人消費の低迷と、より厳格な規制によってマーケットが著しく減速したにもかかわらず、安定した収益を達成しました（0.5%増加）。

資産運用、保険、プライベート・バンキングの事業部門は、マーケットの状況が著しく悪化したにもかかわらず、目覚ましい業績結果を出しました。9月末現在の運用資産は前年同期比2.3%減少し、10億2,600万ユーロでした。これには、2011年9ヶ月累計の68億ユーロの新規流入資金が含まれています。資産運用部門では、法人部門で新規流入が伸び続け、これによってマネー・マーケット・ファンド（MMF）から更に流出した資金を一部相殺することができました。生命保険部門では、新規流入資金はプラスを維持し、9ヶ月累積で33億ユーロ増加しました。

第3四半期は全ての市場参加者にとって困難なマーケット状況であり、法人営業及び投資銀行部門（CA-CIB）は、12.2%の収益減となりました。ファイナンス事業では、ストラクチャード・ファイナンスによって記録的な四半期となりました（+6.6%）。逆に、資本市場部門と投資銀行部門は、特に債券関連事業で債券市場の大幅な下落の影響が見られた一方（-39.4%）、株式部門はほぼ横ばいでした（-1.7%）。

流動性と資金調達

クレディ・アグリコルS.A.は、10月末までに2011年中・長期債発行計画の108%を達成しました。第3四半期だけでも55億ユーロを調達し、10月には追加で24億ユーロを調達しました。更に、支店拠点網

を通して45億ユーロを調達し、年初からの合計発行額は290億ユーロに増加しました。

第3四半期には、短期負債が350億ユーロ削減され1,350億ユーロになりました。流動性準備金は、当グループの証券化可能な高信用度の資産の大規模な基盤によって補充されており、9月末に1,030億ユーロに達しました。流動性準備金は、2011年11月9日現在1,120億ユーロに達しました。ティア1自己資本比率とコア・ティア1レシオは、6月30日現在に比較し安定してきており、それぞれ11%、8.8%でした。

ディレバレッジ計画に関する運営決定は、当グループの負債削減目標を満たすために検討中です。

社会的、環境的責任

社会的、環境的責任に関しては、2011年第3四半期中に、Sustainalytics社によりクレディ・アグリコルS.A.が世界の金融機関の中で16位(156社中)にランクされました。Sustainalytics社は、社会的責任投資(SRI)にリンクする、環境、社会、コーポレート・ガバナンスのリサーチと分析の分野での世界的リーダーです。

決算スケジュール

2012年2月23日	2011年第4四半期及び2011年度決算発表
2012年5月11日	2012年第1四半期決算発表
2012年5月22日	クレディ・アグリコルS.A.年次総会
2012年8月28日	2012年第2四半期決算発表
2012年11月9日	2012年第3四半期決算発表

クレディ・アグリコルS.A.連結決算

(in millions of euros)	Q3-11	Q3-10	Change Q3/Q3	9M-11	9M-10	Change 9M/9M
Revenues	5,285	4,977	+6.2%	16,120	15,270	+5.6%
Operating expenses	(3,226)	(3,198)	+0.9%	(9,832)	(9,765)	+0.7%
Gross operating income	2,059	1,779	+15.8%	6,288	5,505	+14.2%
Cost of risk	(1,851)	(973)	+90.3%	(3,798)	(3,027)	+25.5%
Operating income	208	806	(74.2%)	2,490	2,478	+0.5%
Equity affiliates	244	368	(33.6%)	954	1,077	(11.4%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets and changes in the value of goodwill	(3)	(9)	(63.3%)	(369)	(586)	(37.0%)
Tax	(114)	(292)	(61.0%)	(1,221)	(1,021)	+19.6%
Net income (after tax) from discontinued activities	1	2	nm	14	9	+57.8%
Net income	336	875	(61.6%)	1,868	1,957	(4.5%)
Net income Group share	258	742	(65.2%)	1,597	1,591	+0.4%

2011年第3四半期の収益は前年同期比6.2%増の53億ユーロに達しました。

2010年第3四半期から2011年第3四半期の間の営業費用は抑えられ、同期間中に僅か0.9%の増加となりました。新銀行税を除いては、前年同期比で同水準でした。コスト比率は61.0%で、前年同期比で3.3%低下しました。

2011年第3四半期の営業総利益は15.8%増加して、20億ユーロを超えました。

第3四半期のリスク関連費用は19億ユーロに達し、これはギリシャ国債の減損費用の影響を反映しています。保険部門では、7億6,400万ユーロの関連引当金を認識しました。加えて、エンポリキがユーロ圏包括合意のギリシャ支援計画に参加したことで、第3四半期に1億4,100万ユーロのリスク関連費用が計上されました。これらの影響を除いた場合には、リスク関連費用は2.7%の減少になります。これは主にフランス国内のリテール・バンキングとCIB部門のリスク関連費用の減少によるものです。包括合意のギリシャ支援計画の影響を除き、2011年第3四半期のリスク関連費用は安定し、ローン残高の76ベース・ポイントに相当しました。2011年第3四半期中のリスク関連費用は主に国際リテール・バンキングと専門金融サービスに集中していました。

不良債権(対顧客リース・ファイナンス取引は除く)は、2010年12月31日現在では対顧客ローン及銀行間ローン残高の4.3%に相当したのに対し、当期は対顧客ローン及び銀行間ローン残高合計の4.4%に相当する227億ユーロでした。これらの不良債権に対する特定引当金のカバー・レシオは、2010年12月31日現在50.3%だったのに対し、51.3%でした。引当金を含めて、不良債権のカバー・レシオは67.0%で、2010年12月末に比べ120ベース・ポイント上昇しました。

2011年第3四半期の**関連会社からの利益**は、前年同期の3億6,800万ユーロから2億4,400万ユーロに減少しました。これはBESとEurazeoからの寄与が低水準だったことと、インテサ・サンパオロ(Intesa Sanpaolo)の連結除外に依るものです。

2011年第3四半期の**その他の資産の純利益及び出資金の変動**については、著しい影響はありませんでした。第2四半期は、エンポリキへの出資減損分の3億5,900万ユーロが含まれていました。尚、2010年9ヶ月累計への寄与には、第1四半期にインテサ・サンパオロの0.8%を売却したマイナス影響額(−1億5,900万ユーロ)と第2四半期のエンポリキののれんの減損費用(−4億1,800万ユーロ)が含まれていました。

全体では、第3四半期のクレディ・アグリコルS.A.の**純利益グループ帰属分**は、2億5,800万ユーロとなり、前年同期比では65.2%減少しました。2011年第3四半期のユーロ圏包括合意のギリシャ支援計画の影響額は、6億3,700万ユーロ(下表参照)でした。

2011年9ヶ月累積の純利益グループ帰属分は、ギリシャ支援計画の影響が7億8,300万ユーロあったにもかかわらず、前年同期比で若干増加し15億9,700万ユーロとなりました。

ユーロ圏包括合意のギリシャ支援計画の影響額:

第3四半期純利益グループ帰属分に対する影響額は6億ユーロ

€m	Q2-11			Q3-11			Total Q2 and Q3
	Emporiki	Insurance	Total	Emporiki	Insurance	Total	
Cost of risk	(71)	(131)	(202)	(141)	(764)	(905)	(1 107)
Net impact	(71)	(94)	(165)	(141)	(526)	(667)	(832)
Net impact Group share	(65)	(81)	(146)	(134)	(503)	(637)	(783)

2011年第2四半期、2020年以前に満期のギリシャ国債のポートフォリオ減損比率21%

2011年第3四半期、全ての満期日のギリシャ国債のポートフォリオの減損比率は60%へ上昇

財務状況

クレディ・アグリコルS.A.は2011年9ヶ月間で更に財務健全性を強化しました。2011年9月30日現在、コア・ティア1レシオは8.8%で、2010年12月31日現在に比べ40ベース・ポイントの上昇でした。ティア1レシオも40ベース・ポイント上昇して11.0%になりました。この改善は、ティア1キャピタルの増加とリスク・ウェイト資産の安定化の両面によるものです。コア・ティア1・エクイティ(控除前)は2010年12月31日現在比で2.6%上昇しました。リスク・ウェイト資産は、3,707億ユーロとなり、2010年12月31日現在より10億ユーロ減少しました。2011年の第4四半期には、変換保証が実施されます。変換保証により、クレディ・アグリコルS.A.が保有する地域銀行関連のリスク・ウェイト資産は削減されます(2011年9月30日現在で520億ユーロ)。その結果、自己資本の必要額が約50億ユーロ削減されますが、それに相当する現在ティア1キャピタルに含まれる株主前払金や劣後債券(T3CJ)が返済されます。この取引は、クレディ・アグリコルS.A.の勘定にある地域銀行からの預金によって保証されているため、流動性には影響を与えません。クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に及ぼす影響も限定されます。変換保証料は年間9.3%であり、株主前払金や劣後債券(T3CJ)の金利は既に支払われています(2011年に

8.73%)。

2011年9月30日現在のクレディ・アグリコル・グループのコア・ティア1レシオ(バーゼルⅠフロアー)は8.9%で、2010年9月30日現在と比べて安定しています。フロアー・バーゼルⅠのリスク・ウェイト資産は5億9,700万ユーロに達しました。これは第3四半期で受けた3つの影響を反映しています。すなわち、住宅ローン保証の処理方法の一本化、センテア(Centea)の統合の影響、主に米ドル建てのリスク・ウェイト資産に関わる為替の影響です。アンフロアー・ベースでは、クレディ・アグリコル・グループのコア・ティア1レシオは10.4%で、2011年6月30日比で安定した数値でした。

クレディ・アグリコル・グループ全体でのCRDレシオは11.5%で、ティア1レシオは10.2%でした。

中・長期債によるリファイナンス²では、2011年の発行計画である270億ユーロの108%を達成しています。市場寄与分は111%まで、支店拠点網の寄与分は91%まで達成しています。全体では、当グループは、金額で290億ユーロを調達しており、平均年限は6.7年で、平均コストは6ヶ月スワップ・レートプラス90.6ベース・ポイントとなっています。

2011年9月末現在、クレディ・アグリコル・グループの短期純負債額は1,350億ユーロ³で、2011年6月30日比350億ユーロ減少しました。具体的には、米ドルの純負債が2011年6月30日現在の710億ユーロから2011年9月30日現在の290億に減少しました。

米ドル建ての短期総負債の半分は米国市場のものであり、短期負債の合計の25%に相当します。米国マネー・マーケット・ファンド(MMF)残高は80億米ドルとなりました。しかし、米ドルのキャッシュ剰余金は十分に確保しており、連邦準備銀行のオーバーナイト預金は平均残高で100億米ドルとなっています。

また、当グループは相当な流動性準備金⁴も保有しており、2011年9月末現在で1,030億ユーロに達しました。新規準備金は、証券化可能な高信用度の資産基盤により、定期的に積み増しされています(準備金は2011年11月9日現在1,120億ユーロに達しています): 2011年9月30日現在で1,500億ユーロ以上(住宅ローン、消費者ローン、中小企業ローン、保証付き輸出ローン)。

² 最初の条件は370日でリファイナンス

³ 中央銀行への預金に対する純過剰流動性

⁴ マーケットで現金化が可能な資産及び割引後に中央銀行のリファイナンスを受けられる資産。但し中央銀行への預金を含まない。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. - クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Net income accounted for at equity (around 25%)	227	(1.7%)	638	+4.0%
Change in share of reserves	(9)	nm	154	+16.1%
Share of income from equity affiliates	218	(5.9%)	792	+6.2%
Net income Group share	218	(5.9%)	792	+6.2%

地域銀行の事業展開は堅調でした。9ヶ月間に開設された新規定期預金の口座純増数は、新規顧客獲得の力強い事業展開により前年同期比で26%増加しました。

貸出し業務では、顧客ローン残高は高い水準を維持し、2010年9月30日から2011年9月30日の間に5.4%増加しました。貸出しは、厳しい経済環境にもかかわらず、每期順調に伸びてきました。ホーム・ファイナンスのローン残高は、住宅購入者にとって有利な金利が利用できることから、前年同期比で7.1%増と大幅に増加しました。中小企業ローンの残高は、同期間で5.9%増加しました。これらの増加は、地元経済に対する地域銀行の積極的な支援姿勢を反映しています。

顧客預かり資産では、オン・バランスシート上の預金残高が前年同期比で5.1%増加しました。この増加は、貯蓄の流入資金、特に要求払い預金の流入資金によるものです(前年同期比で6.3%増加し顧客ローン残高の増加率よりも高い)。オフ・バランスシート上の商品、特にマネー・マーケット・ファンド(2010年9月30日から2011年9月30日の間に10.5%減少)からの資金移動が、オン・バランスシート上の顧客預かり資産に有利な状況をもたらしました。全体で、2011年第3四半期のオン・バランスシート上の預金残高は、第2四半期に比べて42億ユーロ増加しました。オフ・バランスシート上の預金残高は、厳しいマーケット環境下においては特に株式関連商品に不利な影響が出たため、前年同期比で2.2%減少しました。

2011年の9ヶ月間で、地域銀行の**収益**は手数料収入によって増加しました。9ヶ月累積の顧客ビジネスの収益は前年同期比1.9%増加し、一方手数料収入は同期間で2.3%増加しました。これは主に金融サービス(14.7%増)や保険(2.1%増)の手数料収入によるものです。

2011年9ヶ月累積の**コスト比率**は、ニース・プロジェクトを除き52.6%と引き続き安定しました。2011年9ヶ月累積のニース・プロジェクトの費用は、第3四半期の5,200万ユーロを含めて、1億5,700万ユーロに達しました。ニース・プロジェクトを除き、費用は2010年第2四半期から2011年第3四半期の間に2.2%減少しました。但し、2011年9ヶ月累積では、前年同期比で2.6%増加しました。

2011年第3四半期の**リスク関連費用**は、主に特定のリスク関連費用が減少したことから、前年同期比で24.5%減少しました。不良債権比率は前年同期比で低下し、2010年9月の2.5%に対し、2011年9月は2.4%でした。カバー・レシオは、包括引当金を含めて109.9%に上昇しました。包括引当金を除いた

場合、68.0%でした。

全体では、2011年9ヶ月累積の地域銀行のクレディ・アグリコルS.A.の**純利益グループ帰属分**に対する寄与は、前年同期比6.2%増の7億9,200万ユーロとなりました。

1.2. - LCL

(in millions of euros)	Q3-11	Change T3/T3*	9M-11	Change 9M/9M*
Revenues	934	+0.0%	2,902	+1.0%
Operating expenses	(620)	(1.2%)	(1,855)	(1.2%)
Gross operating income	314	+2.5%	1,047	+5.2%
Cost of risk	(62)	(31.1%)	(217)	(19.3%)
Operating income	252	+16.4%	830	+14.3%
Net income Group share	165	+14.9%	545	+12.8%

* 2011年第1四半期から採用された会計処理方法に従って、2010年分の支払い手段からの手数料は費用から収益に再分類。

2011年第3四半期中は、信用供与顧客預かり資産のそれぞれの伸びは、LCLの業績結果に影響を与えずにリバランスされました。**純利益グループ帰属分**は、前年同期比で14.9%増加しました。2011年9ヶ月累積で、12.8%増の5億4,500万ユーロに増加しました。

2011年9ヶ月累積の**収益**は、前年同期比で1.0%増加しました。第3四半期は前年同期比で横ばいの9億3,400万ユーロでした。金利収益は、上半期のローン残高に対する金利差益が少なかったことと、第3四半期に規制型貯蓄商品の金利が高かったことが影響し、僅かに減少しました。逆に、手数料収入は引き続き増加傾向を維持し、2011年9ヶ月累積では前年同期比で1.5%増加しました。これは、住宅ローン及び中小企業ローン(18%増加)と生命保険以外の保険及びの信用生命保険(7%増加)の手数料収入による増加でした。

2011年9ヶ月累積並びに第3四半期の**営業費用**は、前年同期比でそれぞれ1.2%減少しました。

2011年9ヶ月累積の**営業総利益**は、前年同期比で5.2%増の10億4,700万ユーロに達しました。

2011年9ヶ月累計のリスク関連費用は前年同期比で19.3%減少し、第3四半期は前年同期比で31.1%減少しました。全ローン残高に対する不良債権の比率は、前年同期比で0.4%低下し、2.4%となりました。2011年9月30日現在のカバー・レシオ(引当金を含む)は、6%上昇し、76.7%となりました(中小企業向けローンは98.3%)。

当事業部門の事業展開は引き続き堅調で、ビジネス指標も有利な傾向にありました。LCLは学生や自動車保険の市場を対象とする商品の幅を増やしました。

LCLは、家庭やビジネスに対しファイナンスを提供する積極的な役割を果たしていることを確認しました。ローン残高は、住宅ローンに支えられて前年同期比で11.4%増加しました。住宅ローンは減速したものの、引き続き高い水準を維持し15.8%増加し(6月30日現在では17.5%増)、中小企業ローンやスモール・ビジネスの顧客向けローン残高は6.1%増加しました。

オン/オフ・バランスシート上の顧客預かり資産は、ローン残高の伸びを上回り、前年同期比で

12.6%増の716億ユーロに達しました。2011年6月30日現在よりも33億ユーロの増加になります。

この伸びは、2011年の第2、第3四半期中に発行されたLCL債を通して調達した12億ユーロ、前年同期比で41.0%大幅増加した定期預金、要求払い預金の8.3%増加によるものです。全体で、オン・バランスシート上、オフ・バランスシート上の顧客預かり資産は前年同期比で2.1%増加しました。

貸出し残高の伸びと、オン・バランスシート上の顧客預かり資産の伸びのリバランスは、貸出/預金比率を下げ、同比率は2011年6月30日現在の129%から同9月30日現在の124%に低下しました。

2. 国際リテール・バンキング

第2四半期と同様、第3四半期の国際リテール・バンキングの業績結果は、ギリシャ・ソブリン債の減損費用によるエンポリキ銀行の業績への影響と、イタリアの新規支店の統合関連費用によってマイナスの影響を受けました。

9ヶ月累計の当事業部門の純利益グループ帰属分は、第3四半期の3億2,300万ユーロの損失を含めて、10億7,700万ユーロの損失となりました。

エンポリキを除く2011年9ヶ月累計の純利益グループ帰属分は2億3,700万ユーロとなり、うち第3四半期は7,400万ユーロでした。2011年第3四半期の収益は、前年同期比で9.7%増加しました。この増加分のうち、2.4%は有機的成長によるもので、8.9%は統合によるものです(イタリアの新規支店の172行を統合)。但し、この増加分は、主にポーランドとエジプトの為替差損による1.6%のマイナスの影響によって一部相殺されました。2011年9ヶ月累計で、収益は7.4%増の改善を見せました。営業費用は引き続き抑えられました。統合範囲の変更とイタリアの統合関連費調整後の営業費用はほぼ横ばいで、2011年第3四半期と9ヶ月累計ではそれぞれ前年同期比で僅かに1.5%、1.2%増加しました。第3四半期のコスト比率は、同費用調整後、59.5%となりました。全体では、9ヶ月累計の営業利益は6億4,500万ユーロ、第3四半期は前年同期比で1.8%増の2億3,100万ユーロとなりました。当事業部門のリスク関連費用は引き続き安定しており、東ヨーロッパでは減少しました。第3四半期では、前年同期比4.9%増加しましたが、2011年9ヶ月累計では前年同期比4.4%減少しました。

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M	Change 9M/9M*
Revenues**	779	+4.3%	2,306	+4.6%	+7.4%
Operating expenses**	(507)	+8.6%	(1,519)	+3.9%	+12.6%
Gross operating income	272	(3.0%)	787	+5.9%	(0.8%)
Cost of risk	(578)	+59.7%	(1,333)	+17.4%	(4.4%)
Operating income	(306)	x3.7	(546)	+39.3%	+2.5%
Equity affiliates	10	(75.6%)	65	(42.5%)	(42.5%)
Goodwill impairment	-	nm	(358)	(14.1%)	-
Pre-tax income	(295)	x7.3	(839)	+20.4%	(8.6%)
Tax	(37)	(28.9%)	(283)	+90.4%	(8.2%)
Net income (after tax) from discontinued activities	-	(78.3%)	14	+50.0%	-
Net income Group share	(323)	x3.3	(1,077)	+28.4%	(5.2%)

* エンポリキを除く。

** 2010年第3四半期の収益及び営業費用は、統合関連の調整を含むが、営業総利益には影響を及さない。

イタリアでは、カリパルマ・グループが引き続き事業を拡大し、優れた運営管理により第3四半期は堅調な業績結果を達成しました。カリパルマは、ローンと預金のバランスを維持しながら、特に住宅ローンでは、順調なペースで貸付ローンの伸びを維持しました。2011年9月30日現在、貸付ローン残高は、336億ユーロに達し、預金残高は327億ユーロに達しました。

更に、カリパルマのオン・バランスシート、オフ・バランスシート上の資金流入額は、厳しい経済環境の中、2011年第3四半期だけでも15億ユーロに達しました。生命保険の運用資産は、2011年9月末現在で100億ユーロを超えました。銀行業務では、同一条件下で、顧客数、当座預金口座数が引き続き増加しました。

こうした堅調な事業展開を背景に、カリパルマは2011年9ヶ月累計の収益が12億600万ユーロ(前年同期比13.3%増)に達し、その内第3四半期の収益は4億2,000万ユーロ(前年同期比14.4%増)でした。

当グループの運営効率を示すように、統合範囲の変更と統合関連費用を除く営業総利益は、2010年9月から2011年9月の間にほぼ5%増加しました。同基準の下、2011年第3四半期の営業総利益は前年同期比15%増加しました。同様に、統合範囲の変更と統合関連費用を除く営業費用は、2010年第3四半期から2011年第3四半期の間に0.4%減少しました。この減少により、カリパルマのコスト比率は2011年第3四半期が0.7%低下、9ヶ月累計では0.9%低下しました。

コスト関連費用は、第3四半期の-7,600万ユーロを含めて、2011年9ヶ月累計が-1億8,400万ユーロとなりました。2011年9ヶ月累計のコスト関連費用は、貸付ローン残高の74ポイントに相当し、前年同期比で6ベース・ポイント低下しました。これはイタリアの他の銀行と比較し優位な結果となっています。2011年第3四半期のコスト関連費用には、顧客取引の引当金が含まれています。

全体では、カリパルマのクレディ・アグリコルSA・グループの純利益グループ帰属分に対する寄与は、9ヶ月累計で1億2,800万ユーロ(前年同期比7.9%増加)、2011年第3四半期が4,900万ユーロ(前年同期比9.7%増加)となりました。

カリパルマ・グループは4年連続でBanca Finanzaから、財務力、収益性、生産性の面でNo.1であると評価されました。更に、カリパルマの格付け(ムーディーズからA1、S&PからA+)とフリウアドリア(FriuAdria)(ムーディーズからA1)は、引き続き最も高い格付けを付与されたイタリアの銀行の一つに入っており、イタリア国債より高い格付けを付与されています。

ギリシャでは、第3四半期のエンポリキの業績結果が再びソブリン債の追加減損費用と、債務問題の深刻な悪化によってマイナスの影響を受けました。

預金に関わる費用がエンポリキの収益に影響を与え、収益は9ヶ月累計では前年同期比3.8%減の5億3,500万ユーロとなり、2011年第3四半期は前年同期比で11.7%減の1億6,900万ユーロとなりました。そのような中で厳しいオペレーション管理により、営業費用は2010年9月から2011年9月の間に、15.0%減と著しく減少しました。その結果、コスト比率は9.7%改善し、2011年9月末現在73.4%に低下しました。エンポリキの営業総利益は、2011年9ヶ月累計が1億4,200万ユーロで、前年同期比で51.9%増加しました。

ソブリン債の減損費用を除き、2011年の第3四半期のリスク関連費用は-3億2,900万ユーロと引き続

き高い水準に留まりました。しかしながら、2010年9月から2011年9月の1年間のリスク関連費用は安定しました。エンポリキの NPLレシオは、2011年9月30日現在31%、カバー・レシオは50%(住宅ローンを除いた場合64%)となっています。

ソブリン債の減損費用は、2011年9月30日現在の減損比率が60%となっており、2011年第3四半期のエンポリキは、-1億4,100万ユーロのリスク関連費用を計上しました。その結果、第2、第3四半期中のギリシャのソブリン債に掛る費用は、合計で2億1,200万ユーロとなりました。

全体では、2011年第3四半期のエンポリキの純利益グループ帰属分は、-3億9,700万ユーロとなりました。

エンポリキは、調達源を増やしクレディ・アグリコル S.A.からの資金依存度を減らす目的で設定したリファイナンス方針を年初に策定し、実施してきました。その額は 2011 年 9 月末現在 78 億ユーロに達しました。新規預金口座の開設に積極的に取り組んだ結果、急速に悪化しているマーケットにおいてもエンポリキの預金口座は、2011 年 3 月に比べてほぼ横ばいを維持しました。さらにエンポリキは、EMTN や CD 発行などを含む他の方法による資金調達も行い、エンポリキ債に投資される生命保険への新規資金流入も確保しました。最後に、エンポリキは、欧州中央銀行(ECB)から公的資金の注入を受ける資格を得るために必要な資産額を迅速に増やすための取り組みを行っており、その額は 2011 年 9 月 30 日現在 10 億ユーロに達しています。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues	971	+0.3%	2,970	+0.9%
Operating expenses	(416)	(3.2%)	(1,264)	(2.3%)
Gross operating income	555	+3.1%	1,706	+3.3%
Cost of risk	(323)	+0.6%	(1,000)	+1.6%
Operating income	232	+6.9%	706	+5.9%
Equity affiliates	3	(12.9%)	10	+13.6%
Pre-tax income	235	+6.6%	716	+5.9%
Net income Group share	126	(5.3%)	424	+9.7%

2011 年第 3 四半期は、専門金融サービス部門は経済環境の低迷下にあっても十分に満足のいく業績結果を達成しました。2011 年第 3 四半期は前年同期比 3.1%の増加、9 ヶ月累計では 3.3%の増加となりました。収益も回復力を見せ、第 3 四半期は前年同期比で横ばい、9 ヶ月累計では 0.9%増加しました。第 3 四半期の営業費用は、前年同期比で 3.2%減少し、9 ヶ月累計では前年同期比 2.3%減少しました。

リスク関連費用はほぼ横ばいで、第 3 四半期は前年同期比で 0.6%の増加、2011 年 9 ヶ月累計では

1.6%の増加となりました。この結果は、部門ごと、地域ごとの異なる傾向を反映しています。2011 年第 3 四半期の消費者金融では 3.5%減少し、リース・ファイナンス及びファクタリングでは大幅に減少しました。しかしながら、引き続きエンポリキ・リーシングのリスク関連費用(2011 年第 3 四半期は 2,600 万ユーロ)が高水準だったことにより相殺され、結果的にリスク関連費用は若干増加となりました。

ギリシャ支援に絡む欠損金の繰越税額効果を勘案後の純利益グループ帰属分は、9 ヶ月累計で前年同期比 9.7%増加、第 3 四半期が 5.3%増加しました。

極めてマイナス要因の多い経済環境の中、**消費者金融**の純利益グループ帰属分は 2011 年 9 ヶ月累計で大幅に増加し、3 億 7,900 万ユーロを達成しました。これは業務効率の改善とリスク関連費用の減少によるものです。

業務環境の減速が確認されていますが、これは主に消費者信頼感並びに消費の低迷によって数ヶ月前に始まったマーケットの悪化が原因となっています。また、規制の強化がこの状況を更に厳しくしています。当グループは 9 月末に発表したディレバレッジ計画の一環として、消費者信用供与と信用残高を厳格に管理しようとしています。従って、ローン残高の増加は前年同期比で 1.4%に抑えられ、2011 年 9 月 30 日現在 781 億ユーロとなっています。フランス国内では、消費者信用残高はほぼ横ばいで僅かに 0.3%増の 2,980 万ユーロでした。イタリアでは、1.1%減少し、277 億ユーロでした。他周辺国、特にドイツでは増加が続いており、6.6%増加しました。

こうした状況においても、特に金利差益の管理方針により収益は回復力を見せました。2011 年第 3 四半期の収益は前年同期比で 0.5%増、9 ヶ月累計では 0.7% 増と安定しました。

当事業部門は、引き続き運営効率を高める方針を取っており、9 ヶ月累計の営業費用は前年同期比 1.3%の減少、2011 年第 3 四半期は 2.4%減少しました。その結果、コスト比率は 40%以下に抑えられました。

2011 年第 3 四半期のリスク関連費用は、前年同期比で 3.5%減少しました。ローン残高に対するリスク関連費用の比率は大幅に改善し、2011 年第 3 四半期は 212 ベーシス・ポイントとなりました。2011 年第 3 四半期の提携・仲介比率は、2011 年第 2 四半期の 78.9%、2010 年第 3 四半期の 76.8%に対し、75%以下にまで低下し、74.1%となりました。

全般的には、2011 年 9 ヶ月累計の純利益グループ帰属分は 13.4%と大幅に増加し、3 億 7,900 万ユーロとなりました。

リース・ファイナンス及びファクタリングは回復力を見せました。

リース・ファイナンスでは、ローン残高が前年同期比 6.3%増加し、198 億ユーロとなりました。この伸び率は主にフランス国内のビジネスによるもので、同国内ではローン残高が 7.1%増の 158 億ユーロでした。これは 2011 年第 2 四半期の落ち込みの後、リースによるローンが好転したことによります。一方海外の増加率は 3.4%でした。

ファクタリングは、堅調な業績を達成しました。2011 年 9 ヶ月累計の売掛債権は 6.5%増加し、444 億ユーロに達しました。2011 年 8 月のユーロファクターUK(Eurofactor UK)の売却による影響額を除いた

場合、15%の増加になります。同期間の伸び率は、フランス国内が 11.5%、海外が 22.0%(同一条件の下)でした。

2011 年 9 ヶ月累計の CAL&F の営業総利益は安定し、0.7%増の1億 7,400 万ユーロでした。2011 年 前半は好調でしたが、第 3 四半期に収益は落ち込み、費用は僅かに増加しました。

リスク関連費用は、全ての国及び全事業部門で過去最低の水準に減少しました。エンポリキ・リーシングを除いた場合、第 3 四半期には 19 ベーシス・ポイントに減少しました。

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

2011 年 第 3 四半期の資産運用、保険、プライベート・バンキングは、主に 2 つの要因によりマイナスの影響を受けました。第一に、ギリシャ国債の減損費用が保険部門の業績に影響を及ぼしました。第 2 四半期に計上された 1 億 3,100 万ユーロに加えて、同費用のためにリスク関連費用が 7 億 6,400 万ユーロ追加されました。第二に、厳しいマーケット環境が当部門全体にマイナスの影響を及ぼしました。2011 年 9 月 30 日現在、運用資産は前年同期比 2.3%減の 1 兆 260 億ユーロとなりました(二重加算を除き 8,240 億ユーロ)。2011 年 9 ヶ月累計の新規資金流入純額は、68 億ユーロに達しました。

ギリシャ国債の減損費用による第 3 四半期のグループ帰属分の損失 2,400 万ユーロにもかかわらず、9 ヶ月累計の当事業部門の純利益グループ帰属分は 7 億 6,600 万ユーロでした。前年同期比では 32.4%の減少となりました。ギリシャに対する包括合意の支援計画による影響額を除いて、純利益グループ帰属分は第 3 四半期が 4 億 7,900 万ユーロで、2011 年 9 ヶ月累計が 13 億 5,000 万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues	1,350	+6.0%	3,996	+6.4%
Operating expenses	(593)	(4.4%)	(1,833)	(3.0%)
Gross operating income	757	+15.7%	2,163	+15.9%
Cost of risk	(770)	nm	(880)	nm
Operating income	(13)	nm	1,283	(30.8%)
Equity affiliates	3	nm	8	nm
Pre-tax income	(10)	nm	1,291	(30.3%)
Net income Group share	(24)	nm	766	(32.4%)

資産運用部門では、アムンディ(2011 年 7 月 1 日に買収した BFT の資産運用オペレーションを含む)が、低迷した経済環境に対応し得る高い能力を示しました。新規資金流入は、機関投資家のセグメントでも伸び続けて、主にソブリン・ファンドに牽引されて 2011 年 9 ヶ月累計では 77 億ユーロとなりました。従業員積立による資金流入は、過去最高水準の 34 億ユーロに達しました。この二つのセグメントが、

支店拠点網や第3者ディストリビューターによる資金流出を相殺しました。流出額は、マネー・マーケット・ファンド(MMF)からの流出81億ユーロを含めて、162億ユーロとなりました。法人セグメントによる流出額は、マネー・マーケット・ファンド(MMF)からの流出の72億ユーロを含めて65億ユーロでした。更に、年初来、続いてきているネガティブな市場トレンドと為替動向による影響もあり、193億ユーロに達しました。

2011年9ヶ月累計の純利益は3億2,400万ユーロで、前年同期比で5.1%増加しました。収益は、パフォーマンス・ベースの運用報酬が減少した結果、9.1%減少しました。一方、運用管理手数料は回復力を示しました。費用は、CAAM-SGAMとの合併によるシナジー効果が十分に反映され、4.9%減少しました(2010年の業務再編費用を除く)。コスト比率も低く抑えられ、56.4%となりました。第3四半期の純利益は7,900万ユーロで、2011年第2四半期に比べると32.2%減となりました。この落ち込みは、マーケットの深刻な悪化によるものです。CAC40指数は第3四半期だけでも25%下落し、運用資産とパフォーマンス・ベースの運用報酬の減少につながりました。この影響を抑えるために、アムンディは損益分岐点を下げる努力を続け、2011年の第2四半期と第3四半期にかけて費用を13.5%削減しました。

2011年の**資産運用サービス部門**の9ヶ月累計の状況は、厳しいマーケット環境にもかかわらず、満足のいく業績を達成しました。カストディー・管理資産額及び預かり資産の減少は、力強い事業活動の展開によって抑えられました。2011年の6月30日から2011年9月30日の間に、マーケットの不利な影響によりカストディー・管理資産額は5.6%減少しましたが、預かり資産はほぼ横ばいとなりました。

こうした状況に対して、2011年9ヶ月累計の収益は、収益源の多様化と証券貸借業務と上場デリバティブのクリアリング業務における堅調な事業展開によって、引き続き安定しました。費用は厳格に抑えられ、2011年9ヶ月累計のコスト比率は70%でした。2011年9ヶ月累計の純利益は1億1,600万ユーロで(第3四半期の4,000万ユーロを含む)、前年同期比で5.5%減少しました。2011年第3四半期の収益は、前年同期比で僅かに1.4%減少しましたが、同期間の純利益は3.7%増加しました。

プライベート・バンキング部門は、厳しい経済環境の中で回復力を見せました。運用資産が3.4%増加したLCL Banque Privéeのよる堅調な業績結果に牽引されて、運用資産は前年同期比で横ばいとなりました(0.2%増加)。2011年第3四半期に集中した為替差損による影響額52億ユーロとマーケットの悪化にもかかわらず、9ヶ月累計の新規流入資金は12億ユーロに達しました。これは主にフランス国内での流入資金です。2011年9月30日現在、運用資産(地域銀行を除く)は、海外の679億ユーロを含めて、合計1,249億ユーロに達しましたが、前年同期比では1.7%の減少となりました。

2011年9ヶ月累計の純利益は、前年同期比で5.3%増加し、1億200万ユーロでした。この良好な業績は、同一条件下及び一定の為替レート下での収益の5.2%の増加によるものです。

保険部門では、2011年の9ヶ月累計の保険料収入が199億ユーロでした。

2011年9ヶ月間のフランス国内の生命保険業務は、33億ユーロの新規資金流入純額を維持するこ

とができました。収益は、9ヶ月累積が13%⁵減少し、2011年第3四半期が特に減少幅が大きく(前年同期比25%⁶)、その減収はより顕著となりました。しかしながら、そのような状況においても2011年9ヶ月累積の運用資産合計は、2.9%増加し、2,200億ユーロに達しました。これには、ユニットリンク型保険の404億ユーロが含まれています。同保険は、2011年9月末現在の運用資産の18%を占めており、2011年9ヶ月累計では前年同期比で3.3%減少しました。

フランス国内の生命保険以外の保険業務では、優れた業績結果を達成しました。同一条件の下、フランス国内の生命保険以外の保険料収入は11%増加し、保険市場の平均増加率である4%⁷を遥かに上回りました。2011年9ヶ月累計の保険料収入は、保有契約高の伸び(前年同期比7%増加)と、2009年と2010年に支払い要求件数が高い水準にあったために保険料が引き上げられたこと、多様化した保険商品の開発による有利な条件などに牽引されて19億ユーロに達しました。

保険部門の国際業務では、イタリアを除いて減速しました。イタリアでは、2011年の9ヶ月累積で保険料収入が前年同期比2%増加しました。一方同期間のマーケットでは23%⁸の減少が見られました。他の国の保険部門は、経済状況の悪化によって悪影響を受けました。海外オペレーションの保険収入合計は、2011年9月末現在29億ユーロで、前年同期比で大幅に減少しました。

フランスの信用生命保険は力強い伸びを見せました。保険料収入は7億6,000万ユーロでした。

9ヶ月累計の保険部門の純利益グループ帰属分は、3億3,900万ユーロでした。ギリシャのソブリン債減損費用の影響により、2011年9ヶ月累計は前年同期比で52.7%減少しました。

保険事業部門の業績は、引き続き堅調でした。2011年9ヶ月累積の営業総利益は27.5%の大幅な伸びを見せました。この業績は、主として生命保険部門での運用資産の伸びと、同期間内に大きな気象災害がなかったことから損害保険の請求件数が少なかったことによるものです。9ヶ月累計のコスト比率は23.2%で、前年同期比で4%ポイントの改善を反映しています。

保険部門の第3四半期の業績結果は、ギリシャ国債の追加減損費用を認識したことによってマイナスの影響を受けました。ポートフォリオ全体の減損比率は60%に上げられました。そのために2011年第3四半期のリスク関連費用はマイナスの影響を受け、7億6,400万ユーロとなりました。2011年9月30日現在、EU包括協議による支援対象国のソブリン債の総エクスポージャーは、保険部門の債券投資ポートフォリオの3.7%に達しました(ユニットリンク型保険を除く)。

⁵ 同一条件による

⁶ 同一条件による

⁷ 2011年8月末のFFSAによる数値

⁸ 2011年8月末現在のIAMA数値

5.法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

第3四半期のCA-CIBは、厳しい経済環境にもかかわらず回復力を見せました。

社債発行(2億6,600万ユーロ)とローン・ヘッジの再評価による修正を除いて、継続事業の純利益グループ帰属分は、3億2,400万ユーロに達しました。これは、ファイナンス事業の優れた業績、資本市場部門の低迷、当期のリスク関連費用が僅かな増加にとどまったことなどを反映しています。

非継続事業は、クレジット・スプレッドの拡大による影響を受け、1億6,400万ユーロのグループ帰属分損失となりました。

CA-CIBの営業費用は引き続き抑えられました。特殊税効果による影響を除いて、第3四半期の費用は安定しました。

(in millions of euros)	Q3-11 Ongoing activities*	Change Q3/Q3 Ongoing activities*	9M-11 Ongoing activities*	Change 9M/9M Ongoing activities*
Revenues	1,248	(12.2%)	4,165	(5.0%)
Operating expenses	(842)	+1.2%	(2,601)	+4.7%
Gross operating income	406	(31.0%)	1,564	(17.7%)
Cost of risk	23	nm	(113)	(62.1%)
Net income Group share	324	(10.0%)	1,033	(12.5%)

* 社債発行とローン・ヘッジの再評価を再修正

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues	692	+5.4%	1,978	+0.7%
Operating expenses	(225)	+6.8%	(682)	+8.1%
Gross operating income	467	+4.8%	1,296	(2.9%)
Cost of risk	17	nm	(113)	(40.4%)
Operating income	484	+17.3%	1,183	+3.4%
Equity affiliates	35	+13.3%	104	+0.9%
Net income on other assets	(1)	nm	(9)	nm
Pre-tax income	518	+16.9%	1,278	+2.4%
Tax	(157)	+34.2%	(416)	+21.2%
Net income	361	+10.6%	862	(4.8%)

2011年第3四半期のファイナンス事業は、ストラクチャード・ファイナンスに牽引されて、堅調な業績を達成しました。

当期のストラクチャード・ファイナンスは堅調で、引き続き金利差益と手数料収入が大きかったことに牽引されて、収益は4億3,800万ユーロとなりました。船舶ファイナンス、企業買収ファイナンス、コモディティ価格のボラティリティが大きかったことに恩恵を受けたコモディティ・ファイナンス事業が、顕著な好業績の結果をもたらしました。企業買収に関連するファイナンスでは、クレディ・アグリコル CIB が、EMEA 地域のリーグテーブルで10位から5位へ、西ヨーロッパで12位から5位へと上昇することが出来ました⁹。

商業銀行部門の収益は回復力を見せ、第3四半期は2億4,100万ユーロとなり、取引量の減少と高い流動性コストにもかかわらず、第2四半期(2億4,700万ユーロ)とほぼ同水準でした。クレディ・アグリコル CIB は、シンジケーションにおいて安定した地位にあることによって恩恵を受けており、フランスでは第1位、EMEA 地域では第3位から第2位に上昇しました¹⁰。

第3四半期のローン・ヘッジは当期も僅かながら好影響を生み、2011年第2四半期の収益600万ユーロ、並びに2010年第3四半期のマイナス4,000万ユーロに対して、1,300万ユーロの収益を生みました。

第3四半期のリスク関連費用は低い水準に抑えられ、1,700万ユーロでした。これは、前期は顧客ローン残高に対しリスク関連費用が17ベース・ポイント、また2010年第3四半期は11ベース・ポイントだったのに対し、当期は顧客ローン残高(年率ベース)の-6ベース・ポイントとなりました。当期中、特定の重大な引当金が計上されることはありませんでした。2011年9月30日現在の引当金は15億ユーロと、安定していました。

⁹ 出典:トムソン・ファイナンシャル

¹⁰ 出典:トムソン・ファイナンシャル

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues	975	+45.0%	2,656	+10.6%
Operating expenses	(617)	(0.7%)	(1,919)	+3.5%
Gross operating income	358	nm	737	+34.6%
Cost of risk	6	nm	0	nm
Operating income	364	nm	737	+67.9%
Equity affiliates	0	nm	(1)	nm
Net income on other assets	1	nm	3	nm
Pre-tax income	365	nm	739	+67.8%
Tax	(117)	nm	(242)	+73.4%
Net income	248	nm	497	+65.2%

2011 年第 3 四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益は、社債発行の再評価による影響額 4 億 4,300 万ユーロを反映しています。

この影響額を除いたベースでは、混乱が続くこの金融市場の環境下において、資本市場部門の収益は減少しました。

特に、第 3 四半期の債券関連部門の収益は、第 2 四半期の 3 億 7,100 万ユーロ、2010 年第 3 四半期の 3 億 6,900 万ユーロに対し、2 億 2,500 万ユーロに減少しました。

この収益結果の要因は、主に債券資本市場並びに資金部門にあります。スプレッド(クレジット、OIS-BOR 等)が大幅に変動したこと、債券発行市場と流通市場の閉鎖や市場取引の低迷、また小さな影響ではありますが、9 月には資金部門における米ドル流動性確保のための調達コストの上昇などもその要因となりました。

逆に、金利デリバティブや外国為替業務は回復力を見せました。クレディ・アグリコル CIB は金融機関の債券部門で 5 位から 3 位に上昇しました¹¹。

第 3 四半期の株式部門の収益は、ブローカレッジ業務の回復により、第 2 四半期が 3 億 5,000 万ユーロ、前年同期が 3 億 5,400 万ユーロであったのに対し、3 億 4,400 万ユーロとなりました。ブローカレッジ業務は、金融市場のボラティリティが特に高かった夏の時期、ニューエッジ(Newedge)と CLSA の出来高が急増したことに恩恵を受けました。

また、欧州のソブリン危機が生んだ市場の混乱にもかかわらず、VaR(最大予想損失額)はおよそ 1,000 万ユーロの過去最低の水準まで下がりました。

¹¹ 出典: トムソン・ファイナンシャル

非継続事業

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues	(105)	nm	(102)	(65.8%)
Operating expenses	(25)	(7.4%)	(75)	(5.1%)
Gross operating income	(130)	x5.9	(177)	(53.1%)
Cost of risk	(100)	+8.7%	(178)	(42.2%)
Pre-tax income	(230)	x2.0	(355)	(48.3%)
Tax	63	+57.5%	105	(52.7%)
Net income	(167)	x2.3	(250)	(46.1%)

第3四半期の非継続事業による影響額は増加し、1億6,700万ユーロの損失(グループ帰属分)となりました。これは主にCDO、ABS、CLOポートフォリオとコリレーション事業のリスク関連費用によるものです。

CDO、ABS、CLOの収益は、依然として低水準の2,900万ユーロに留まりました。逆にこれらの事業のリスク関連費用は、一定の評価基準(期間、推定回収率)を銀行の過去のデータに基づいて修正した結果、1億ユーロと高い水準に達しました。但し自己勘定取引に使われた推定率は変更していません。

コリレーション事業では、拡大するクレジット・スプレッドが、保証会社の負うリスクにマイナスの影響を及ぼしました。その結果、これらの事業収益は、1億4,600万ユーロの損失となりました。2011年10月10日に、クレディ・アグリコル CIB とブルーマウンテン(Blue Mountain)は、コリレーション事業の市場リスク・エクスポージャーを移管するための覚書きに署名しました。この取引は、監督規制による義務が満たされることが条件となりますが、2011年末までに合意に達する見込みです。

第3四半期のエキゾチック・エクイティ・デリバティブは、1,200万ユーロのプラスの寄与となりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues*	(311)	+4.7%	(586)	(6.5%)
Operating expenses*	(223)	+25.5%	(685)	+8.8%
Gross operating income	(534)	+12.5%	(1 271)	+1.2%
Cost of risk	(41)	nm	(77)	x4.2
Operating income	(575)	+22.1%	(1 348)	+5.9%
Equity affiliates	(25)	nm	(24)	nm
Net income on other assets	(4)	(60.2%)	(5)	(97.4%)
Pre-tax income	(604)	+43.9%	(1 377)	+2.9%
Net income Group share	(339)	+18.8%	(949)	(8.0%)

*2010 年第 3 四半期の収益及び営業費用は、統合関連費用の調整を含みますが、これは営業総利益に影響を及ぼしません。

2011 年第 3 四半期の収益は、2010 年第 3 四半期の−2 億 9,600 万ユーロに対し、−3 億 1,100 万ユーロとなりました*。これには、クレディ・アグリコル・プライベート・エクイティ(Crédit Agricole Private Equity)とクレディ・アグリコル・インモビリエ(Crédit Agricole Immobilier)の堅調な業績結果、2011 年第 2 四半期より減少したリファイナンス費用、財務運用管理による高収益が含まれています。

営業費用には、エバーグリーン(Evergreen)、ニース及びシャルトル・プロジェクトの継続的費用が反映されています。

2011 年第 3 四半期の関連会社からの 2,500 万ユーロのマイナスの寄与は、主に Eurazeo のマイナス寄与を反映しています。

2011 年第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、2010 年第 3 四半期の−2 億 8,500 万ユーロに対し、−3 億 3,900 万ユーロでした。

2011 年 9 ヶ月累計のコーポレート・センターの純利益グループ帰属分に対する寄与は、2010 年 9 ヶ月累計の−10 億 3,200 万ユーロに対し、−9 億 4,900 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2011 年 9 ヶ月累計で、クレディ・アグリコル・グループの収益は前年同期比で 4.4%増加し、268 億 8,600 万ユーロとなりました。これには、第 3 四半期の 87 億 6,600 万ユーロ（前年同期比 3.7%増）が含まれています。営業費用が 2.2%と若干増加しましたが、2011 年 9 ヶ月累計の営業総利益は前年同期比 7.7%増加し、111 億 2,500 万ユーロとなりました。これは、厳しいマーケット環境にもかかわらず、当グループの堅実な安定性を反映しています。

2011 年 9 ヶ月累計のリスク関連費用は、決算報告で 16.3%増加し、2011 年第 3 四半期は 70.5%増加しました。ただし、欧州包括協議のギリシャ支援計画による同費用を除いた場合、第 3 四半期はフランス国内のリテール・バンキングと CA-CIB の双方のリスク関連費用減少によって、10%以上の削減を実現しました。

9 ヶ月累計の出資価額の変動には、2011 年第 2 四半期に計上された、エンポリキへの出資減損費用 3 億 7,900 万ユーロが含まれています。

課税額は、2011 年 9 ヶ月累計の決算報告では 10.5%増加しており、2011 年の第 2 四半期に計上されたエンポリキによる繰延税金資産の取り崩しによる 1 億 4,800 万ユーロの経常外費用を含みます。

グループ全体では、2011 年 9 ヶ月累計の純利益グループ帰属分は、第 3 四半期の欧州包括協議のギリシャ支援計画への関与による影響額 6 億 5,000 万ユーロにも拘らず、前年同期比で 1.2%増の 33 億 3,800 万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q3-11	Change Q3/Q3	9M-11	Change 9M/9M
Revenues	8,766	+3.7%	26,886	+4.4%
Operating expenses	(5,212)	+3.4%	(15,761)	+2.2%
Gross operating income	3,554	+4.1%	11,125	+7.7%
Cost of risk	(2,008)	+70.5%	(4,800)	+16.3%
Operating income	1,546	(30.9%)	6,325	+2.0%
Equity affiliates	28	(79.7%)	158	(51.4%)
Net income on other assets	(5)	(51.0%)	(8)	(95.3%)
Change in the value of goodwill	1	nm	(378)	(15.3%)
Pre-tax income	1,570	(33.5%)	6,097	+3.1%
Tax	(560)	(28.3%)	(2,500)	+10.5%
Net income (after tax) from discontinued activities	1	(35.0%)	14	+58.9%
Net income	1,011	(36.1%)	3,611	(1.4%)
Net income Group share	930	(36.0%)	3,338	+1.2%

クレディ・アグリコル S.A.の2011年第3四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders の財務情報で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A.により公開されています。

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31			
Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
Colette Canciani	+ 33 (0) 1 43 23 45 93	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46	Aurélien Marboeuf	+ 33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the nine-month period ending 30th September 2011 has been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at this date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting".